

令和4年度 日本電子専門学校 第二回学校関係者評価 中間報告会報告書

評価対象期間 自：令和4年4月 1日
至：令和4年9月30日

令和4年11月

学校関係者評価委員会

目 次

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針・・・・・・・・・・・・・1
2. 学校関係者評価委員名簿・・・・・・・・・・・・・2
3. 学校関係者評価委員会の実施状況・・・・・・・・・・・・・4
4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方・・・・・・・・・・・・・5

II 学校関係者評価報告書の見方・・・・・・・・・・・・・6

III 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総評・・・・・・・・・・・・・7

令和4年度前期の取組（中間報告）に対する評価と意見

○学校の近況・・・・・・・・・・・・・9

○NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」・・・・・・・・・・・・・10

○クリエイター・エンジニア教育の重点項目・・・・・・・・・・・・・14

○総合評価・・・・・・・・・・・・・17

IV 学校関係者評価委員会議事録・・・・・・・・・・・・・20

○全体自由意見・・・・・・・・・・・・・23

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

日本電子専門学校における学校関係者評価の目的を、以下のように定める。

- ①自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。
- ②生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・職能団体・専門分野の関係団体、中学校・高等学校等、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、所轄庁・自治体の関係部局、在学生など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

2) 基本方針

日本電子専門学校における学校関係者評価は、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

3) 委員会運営

令和4年度における学校関係者評価委員会を以下のように年2回の開催とする。

- ①第1回目(7月)に実施する委員会は、令和3年度(前年度)の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。
また、令和4年度に定めた、重点的に取り組むことが必要な目標・計画を発表する。
- ②第2回目(11月)に実施する委員会は、令和4年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う。

2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として、卒業生、関係業界、職能団体、関係団体、高等学校、日本語教育機関、家族・保証人、地域住民、在学生に委嘱した。

属性	氏名	所属	役職
企業	鈴木 周祐	株式会社びえろ	人事総務部 リーダー
	井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	研究開発部 ディレクター
	木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	エグゼクティブ・ アドバイザー
	舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	社長室長
	渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	代表
	佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社	代表取締役
	伊藤 好宏	JTP 株式会社	技官
職能団体	篠原 たかこ	CG-ARTS (公益財団法人画像情報教育振興協会)	教育事業部 事業部長
	満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構	理事
	森 まり子	東京商工会議所 新宿支部	事務局長
	原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会	常務理事・ 事務局長
	米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	人材交流委員会 委員
高校教員等	勝間田 清一		
	品田 健	聖徳学園中学・高等学校	学校改革本部長
	西田 政偉	株式会社ウィザス	高校大学事業本部 高校総括部 通信生運営室 課長代理
日本語学校	会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	教務部 副部長

卒業生	谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	プロジェクトマネージャー
	中山 秀昭	日本電子専門学校同窓会	副会長
ご家族・ 保証人	高野 優美		
	高橋 晶子		
	大和 宗良		
地域住民	小澤 博太郎	百人町西町会	会長
在校生	山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科	2年生
	笹原 萌絵	アニメーション科	2年生
	岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科	2年生
	宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科	1年生
	水山 颯香	ゲーム制作研究科	1年生
	森 碧大	電気工事技術科	1年生
	武藤 遼河	高度電気工学科	2年生 学生自治会 会長

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

1) 令和4年度第二回学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：令和4年11月28日(月) 13:30から16:00

場所：日本電子専門学校 7号館1階 711教室

2) 学校関係者評価委員会実施方法

今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大を鑑み、密を避けるために、対面で行うことを避け、オンライン会議システム（Zoom）を利用し実施した。

3) 学校関係者評価委員会 進行

(1) 事務連絡（スケジュール、事前配布資料確認） 13:30～

(2) 校長挨拶

(3) 出席者紹介（日本電子教職員、評価委員）

(4) 評価方法説明

(5) 議長（委員長）選出

(6) 学校関係者評価委員会開始 13:50～

令和4年度教育重点項目 前期実施報告

・学校の近況

・新学科設立 DX スペシャリスト科

・第三者評価（2022-2026）の受審

・NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」

1. 「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」

2. 学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実

3. 新設学科開発フレームを活用した調査・検討

4. 遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用

・クリエイター教育の重点項目

・エンジニア教育の重点項目

・・・ 評価結果の判定（評価シート記入） ・・・

(7) 全体自由意見 15:30～

4. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

1) 自己点検・自己評価の実施

日本電子専門学校は、第二回学校関係者評価委員会の実施に先立ち、文部科学省及び私立専門学校等評価研究機構の『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和4年度昼間（4/1～9/30）の自己点検を実施した。自己点検項目は令和4年度における「教育重点項目」3項目であった。

2) 自己点検・自己評価結果の評価

学校関係者評価委員は、日本電子専門学校の説明を受け、項目ごとに前期の取り組みが「十分」または、「不十分」の2分法にて評価を行い、その理由や意見を「学校関係者評価委員会 評価記入シート」のコメント欄に記載した。

最後に、日本電子専門学校は、評価項目や学校・学科の改善に関する学校関係者委員の自由意見を聴取した。

The image shows a Google Form interface for the '令和4年度第二回学校関係者評価委員会 評価記入シート' (Evaluation Entry Sheet for the 2nd School Relationship Evaluation Committee Meeting, Heisei 4). The form is titled '学校法人 電子学園 日本電子専門学校' (School Corporation Electronics Gakuen Nippon Electronics College). The form includes a header with the school logo and name, followed by the title and date (令和4年11月28日). Below the title, there is a link to 'yoetuke@jec.ac.jp アカウントを切り替える' (Switch account) and a red asterisk indicating a required field. The form has two main input fields: 'メールアドレス*' (Email address) and '評価者(ご氏名)*' (Evaluator (Your name)). Below these fields, there is a '次へ' (Next) button and a 'フォームをクリア' (Clear form) button. At the bottom, there is a note: 'Google フォームでパスワードを登録しないでください。このフォームは日本電子専門学校 内部で作成されました。不正行迹の警告' (Do not register a password with Google Forms. This form was created internally at Nippon Electronics College. Warning of illegal activity). The Google Forms logo is at the bottom.

Ⅱ 学校関係者評価報告書の見方

1. 自己評価結果の結果集計

学校関係者評価委員 24 名が記述した評価記入シートより、評価基準の「十分」記入数、「不十分」記入数を集計しパーセント表示した。

2. 委員コメント

評価記入シートの委員コメント欄に、学校関係者評価委員が入力したコメントを項目毎にまとめた。

Ⅲ 学校関係者評価委員会 評価結果報告

総 評

本委員会は、日本電子専門学校学校の学校運営に関する自己評価の結果について、学校関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性、透明性を高め、理解促進、連携協力によって学校運営の改善に役立てていただくことを目的としています。

第二回目（11月）に実施する委員会は、「令和4年度の運用に於ける実施状況の中間報告会として行う」ことになっており、この規定に従い、令和4年度日本電子専門学校第二回学校関係者評価委員会を令和4年11月28日に実施しました。

今回の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルスの感染の危険性がある密集を防ぐため、委員会開催方法をオンラインでの開催に変更し、3つの「教育重点項目」について、中間報告を校長および教育部署長より行いました。

評価については、評価委員の委嘱を受けた、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民、高等学校教員等（大学、日本語学校含む）、在学生の参加委員24名が、それぞれの立場から、学校担当者からの報告に基づき、項目ごとにその取り組みが「十分」であったか「不十分」であったかを判断した結果が以下の通りです。

<教育重点項目に関する中間報告>

1. 令和4年度教育重点項目 前期実績報告 学校の近況（十分：24、不十分：0）
2. NEXT10「日本電子専門学校のさらなる伸張」（十分：24、不十分：0）
3. クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目（十分：24、不十分：0）

この評価結果は、日本電子専門学校の取り組みが委員に認められた証であり、多くの委員がコメントにもそのように記述しています。

また、新設学科の設立やTokyo P-TECHでの活動など、常に挑戦する教育を実践していることも、良い評価に繋がったと言えます。

今後も、学校の課題を解決するために、評価委員の意見を反映して頂くとともに、日本電子専門学校及び専門学校全体の教育の質を高めるような取組みを継続し、実施して頂くことをお願い致します。

我々評価委員は、引続き協力することをお約束し、学校関係者評価委員会評価報告書を提出するにあたっての総評と致します。

学校関係者評価委員会
委員長 舟山 大器

令和4年度 第二回学校関係者評価委員会

令和4年度教育重点項目 前期実績報告

学校の近況

評価結果	十分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① スポーツフェスティバルは残念でしたが、コロナ禍で対応が難しい中でも、折を見てイベントが少しずつ戻ってきたようで良かったです。(鈴木) →十分
- ② 近況コロナの影響で大変な状況が続いていると思われませんが、しっかり対策しつつ、その中でもなるべく予定されていた行事等を実施しようとされている前向きな姿勢が好印象でした。(井沢) →十分
- ③ 感染症対策、対応、判断は充分と思います。学生さんについては、大小さまざまな大会へのチャレンジと多岐にわたる分野での活躍は大変素晴らしく、結果も伴って充実していると感じました(木下) →十分
- ④ まだまだコロナ禍が続く中、コミュニケーションが失われがちの中でも、コミュニケーションをどう取るべきか深める努力をしていることがうかがえます。また本校は毎年、学生の活躍が目覚ましく技能五輪国際大会での銅賞入賞の快挙をはじめ、ものづくり協議大会でも金賞/厚生労働大臣賞を受賞など各分野で数えきれない成果を残していることは、本校の教育レベルの高さだと思います。今後も続いて皆様のレベルの高い教育に期待しています。(舟山) →十分
- ⑤ 技能五輪国際大会、技能五輪全国大会など、積極的に学校外の大会に出場および好成績を収めているのは素晴らしいと思います。先生方は技術だけではなく、チャレンジの楽しさを教えていただけるのだと実感しました。(伊藤) →十分
- ⑥ 技能五輪に参加し受賞するなどの他、たくさんのコンペや大会にチャレンジし、コロナ禍ではあるが積極的な活動を行っている。(篠原) →十分
- ⑦ 技能五輪国際大会の毎回の受賞はとても素晴らしい実績だと思いました。生徒の努力もさることながら、先生方のご尽力の賜物だと感じております。お疲れさまでした。(満岡) →十分
- ⑧ コロナ禍での学校運営は大変だと思います。学生のチャレンジ精神を育てていることとても素晴らしいと思います。SAJが運営しているU-22プログラミングコンテストにも応募がありました。残念ながら上位には入りませんでしたが、応募ただけで嬉しく思います。引き続き、導きをよろしくお願いします。(原) →十分
- ⑨ 学生活動の成果報告として十分な内容でした。(米井) →十分
- ⑩ 挑戦する学生さんが多数いらっしゃり、また結果を残していることは素晴らしいと思います。本校でも生徒や教員のチャレンジを推奨していますが、生徒の可能性が大きく広がることを体験しております。残念ながらこのような結果がなかなか中高には伝わってこないということが課題なのかなと思いました。行事等につきましても中高も同様に変更や延期、中止など振り回されております。

学園が学生のことを考えご対応いただいていることが伝わりました。(品田) →十分

- ⑪ 世界大会などの数多くの大会に積極的に参加をし、優秀な成績をおさめていることは大変意義のあることだと存じます。今回、銅賞を取った学生さんが出たことは、在校生をはじめ後輩となる学生さんたちにとっても励みになるのではないのでしょうか。また、賞を取らなかったとしても参加することに意義があり、今後の糧につながっていくことと思います。(会田) →十分
- ⑫ 様々なコンテストへの参加、活躍について学生へサポートされていて素晴らしいと感じました。(谷) →十分
- ⑬ 学校行事について、オンライン及び感染症防止ガイドラインの基での合同企業説明会、日専祭の開催～今できるベストを尽くしていると思います。(小澤) →十分
- ⑭ さまざまな分野での学生たちの挑戦と成果が生まれていることがわかり非常に良かったと思います。(大山) →十分
- ⑮ スポーツフェスティバルについて来年実施するにあたって新型コロナウイルス対策をどう取り組みをする予定なのか記載してもよいのではないかと感じました。(中止になる前の予定で出ていたもの。例：午前、午後で学科ごとに分けて実施するなど)
学生の活躍について他学科の取り組みを知ることができました。(水山) →十分
- ⑯ 学校行事を中止・続行するにあたって、どのような判断基準で話し合いが行われたのか詳しく聞きたかったです。それ以外は良かったと思います。(森碧大) →十分
- ⑰ 生徒のことを考えてのイベントの運営や、多くの大会に出場し、良い成績を取っているのは、ものすごく良いと感じます。(武藤) →十分

NEXT10「日本電子専門学校」のさらなる伸張」

評価結果	充分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① ボランティア活動や学生自治を否定するものではありませんし、素晴らしい活動をされていると思いますが、やはりキャリア教育の一環とされる以上は、社会人基礎力が向上しているのかの点の考察が不可欠かと思われますので、後期の検討課題に期待します。(鈴木) →十分
- ② ディプロマサプリメントの成績可視化は良いと思います。ぜひ実用されるといいなと思いました。採用側（に公開されるのか分かりませんが、される場合）の選考がしやすくなるかなと思うのと、何より学生本人のモチベーションアップにつながるかなと思いました。
遠隔授業について、ハイフレックス型は柔軟性がある良さそうだと思います。悪い方向に転ばないことをお祈りします。(井沢) →十分
- ③ 重点項目のラインナップについては、昨今の業界等の流れや傾向を鑑みられており、特に問題はないと思います
DX に続く新設についても継続的に検討し実施に向けて動かれていることは望ましいことと思います。既存学科の見直しも同時に検討されていますが、時代に則したものになるものと期待しています
遠隔授業については、未だご苦労が多いことと思います。リアルの重要さとオンラインでの便利さ、効率化など、今後も継続的に取り組まれ、新しい授業のあり方が見えてくることを願っています (木下) →十分
- ④ <新設学科設立 DX スペシャリスト科><第三者評価(2022-2026)の受診>について
専門学校の良いところは、その時代時代にあった先端の技術を学ぶためのカリキュラムをフレキシブルに取り入れられるところだと感じる。DXについても世の中のニーズに合致したものであると考えている。第三者評価についても受診する専門学校が60校/3000校と少ない中で、今回第4回目と継続されている。これは大変必要なことであると思われる。
<「建学の精神」の実現に向けた「教育の質の保証・向上」>について
教育の質の保証・向上については、見える化を通じ定性・定量の両面において改善を行う姿勢が垣間見える。我々企業においてもコンピテンシーは重要項目と考えられており、単なる数値目標だけを評価するのではない時代に沿ったものだと考えられる。
<学生主導で社会人基礎力を養うキャリア教育の充実>について
コロナの時代においては人と接する機会が少ないため、企業にとっても一番多感な時期をどう過ごしてきたのかは大事なことだと思われる。このような社会人基礎力を学生主導で養っていくことは大いに賛成である。今後も継続的に続けて欲しいと願う。
<新設学科開発フレームを活用した調査・検討>について

本校においても、企業同様に「選択と集中」は大事なことである、新たなるチャレンジの新設だけでは、統廃合すべき学科も考えての調査・検討は素晴らしい。また、ボトムアップ型で進捗するためにはどうしたらいいかと常に考えて実施している点もよいと感じた。

<遠隔授業の標準化・質保証と先端テクノロジーの利活用>について

こちらでもコロナ時代に対応した取り組みだが、先生方の教育での遠隔授業の苦勞が非常に分かり、且つどのようにすればベストなのかを常に考えている姿が思い浮かぶ。また、ナレッジベースで蓄積している点もよいと思う。今後も質を落とさず頑張ってください。(舟山) →十分

⑤ 「遠隔授業の標準化・質保証、先端テクノロジーの利活用」に関しまして、ガイドラインの策定やナレッジベースの構築・知見共有など、オンライン授業を標準化・質の維持をしていく上での先生方のご苦勞や工夫が大変参考になりました。ハイフレックス型授業の運用に際して、パソコンや画面の多さなど大変な部分もあるかと思いますが、しっかりとナレッジを構築し、共有されることで、質の維持に繋がると感じます。会社の業務においても、知見知蓄積や共有等がありますが、時間経過とともに形骸化する情報や陳腐化する者も出てきますので、定期的な見直しや点検などもされると効果的な内容が維持されるかとも思います。充実したナレッジの蓄積と質保証に期待しています。(佐々木) →十分

⑥ ご報告ありがとうございました。現状に甘んじることなく、常に品質向上、新規分野(学科)への拡大等されており、素晴らしいと感じました。引き続きよろしくお願いたします。(伊藤) →十分

⑦ 社会人基礎力の向上は、企業からも求められている大切な部分。学生自治会という考え方は大変興味深く、主体性のある活動だと感じました。成果測定をされることで期待されます。

新設学科の設立や学科統廃合については、そのスキームを含め、現在だけでなく未来につながる計画を心がけている。(篠原) →十分

⑧ 数値化が難しいリテラシー・コンピテンシーを測定するのはいいことだと思います。「PROG」は知らなかったのですが、結果がどのようになったのかを知りたく思いました。(満岡) →十分

⑨ DX人材は、我々業界でも必要不可欠な状況です。逆に言うと懸念としては、教える側の質、本当に必要とされる人材なのか、頭でっかちにならないかなどがあります。学校の目標があまり聞けていないので何とも言えませんが、われわれ業界の人材不足が続いているので、ぜひ、良い人材を輩出していただければと思います。

能力の可視化は良いですね！測定のみならず指導もよろしくお願いたします。

既存学科の統廃合がないのは良いことだと思いますが、人口減少もあり、今後ますます厳しくなりますので、適正な手続きを進めていただければと思います。

オンライン授業については、学生の学びはしやすくなっていますが、成績はいかがでしょうか？また、クラスでの学生同士のコミュニケーションはどうなっていますか？企業でも雑談の必要性をよく耳にしますし、学校時代の仲間が社会人に

なってもつながっていくことが必要と考えています。いずれにしても全体的には良く運営されていますね！（原）→十分

- ⑩ 各項目ともに十分理解できました。（米井）→十分
- ⑪ リテラシーやコンピテンシーといった言葉は社会人でも説明できるかという点と難しいものですが、学生さんへの説明や学生さんの理解度はどうなのか知りたいと思いました。中高の説明会でも用語の使い方には難しさを感じています。既存学科の見直しについて、主に損益分岐点比率での評価が中心となるのかなと見えました。学生が集まっていればOKということではないと思いますが、先を見通しての見直しとして取り組まれていることがありますでしょうか？遠隔学習運用ガイドラインは興味深く伺いました。本校でもオンライン学習期間に作成を行いました。先端テクノロジーを利活用した授業運用についても大変興味深く思います。先端を学ぶ機関であるからこそできることに期待しております。（品田）→十分
- ⑫ 学修成果の可視化として、入学時から卒業時まで図で成績を見ることができるとは、力の伸びが見られて学習者の方の励みにもなると思います。教員側も学生の弱点が一目瞭然で、指導もしやすくなりそうです。ただ、社会人基礎力の部分の評価に関しては、項目はしっかり立てられているものの、どのように測定するかを学習者の方に示すことは難しいのではないかと思います。業界ニーズにこたえる人材を育てるために、新設学科の検討や既存の学科を検討するスキームがあることは素晴らしいと思います。新設のDXスペシャリスト科については、当校にも広報部の方がいらっしゃって早々に内容説明をしていただきましたが、留学生に新設学科をアナウンスするタイミングが難しく、正直まだ浸透していないような状況にあります。この学科を志望してきた学生に、DXも勧めてみるといい…など、具体的な誘導方法をご教示いただければ、ピンポイントで紹介ができるかと思います。（会田）→十分
- ⑬ とくに「DXスペシャリスト科」新設、「遠隔授業の標準化、質保証」について社会のニーズ、環境変化に応え、スピーディに対応されていることがよくわかりました。（谷）→十分
- ⑭ IT+ビジネスを学ぶDXスペシャリスト科の新設が大成功することを念願しております。常に「魅力ある募集力の高い」新設学科を創造してください。（小澤）→十分
- ⑮ 各種能力の測定と標準化、数値化を追及するのは外部には分かりやすく見える化することになるが、それが目標となってしまうように注意を十分に払っていただきたいと思います。一番の目的は学生たちの能力の向上であり、いかに示唆に富んだ教育環境を提供するかだと思います。（大山）→十分
- ⑯ 遠隔授業のマニュアルの統一大変良いと思いました。マニュアルを統一することで授業の質も保証され、学生にとっても教員の方にとっても良い結果を招くのではないかと思います。（笹原）→十分
- ⑰ 遠隔授業に関して実際に遠隔授業を受けている身としましては、昨今リモートワークであったり、リモートワークの実施による業務の新しい形として遠隔で行う

ことに意味があると感じております。ですが、リアルタイムであるからこそだと私は考えております。オンデマンド授業に関しましては、疑問に感じたことをすぐ問うことができないことや共に授業を受けている生徒にその疑問点を共有できるのか、といった部分に関して不安に感じます。オンデマンド授業の実施に関しましては、より慎重に検討していただきたいです。(宮下) →十分

- ⑱ DX スペシャリスト科についてオープンキャンパスの内容、またオープンキャンパスの宣伝方法が気になりました。54名がオープンキャンパスに参加する中、19名が合格という現状の数字がでている理由も深く掘り下げていくことが今後の入学希望者の増加に繋がると感じました。

今、世の中で注目されているガクチカへの対策の動きが学生主体の活動を行うという体制ということとその経過がよくわかりました。(水山) →十分

- ⑲ 新学科設立に関しては、このまま進めてよいと思いました。感染予防のために取り入れているオンライン授業については、対面を希望されている方の理由、オンラインを希望されている方の理由が気になりました。特にオンラインを希望されている方についてですが、わかりやすいから希望しているのか、それとも学校に登校しなくてよいからなのか明確に知りたいです。オンライン授業が全体の学力向上の妨げになっていないことを願っています。(森碧大) →十分

- ⑳ 学生主体のイベント運営が多くなってきており、今後もその発展に尽力いただければと思っております。(武藤) →十分

クリエイター教育／エンジニア教育の重点項目

評価結果	十分：24 100%	不十分：0 無回答：0
------	---------------	----------------

コメント欄

- ① クリエイター教育について、令和元年の前期実績と同様の数字が出ているようで後期も期待です。
エンジニア教育についての高校～専門の5年間一貫したカリキュラムを組んでいくというのは大変面白い取り組みとと思いました。それぞれの教育課程において考えることもあると思いますので、なかなか難しいと思いますが、良い成果が出ることを期待しています。また、アニメなど他の業種では難しい部分もあると思いますが、新しい取り組みがあればよいと感じます。(鈴木) →十分
- ② 内定獲得率をコロナ禍前の水準に戻せたのは素晴らしいと感じました。(井沢) →十分
- ③ クリエイター教育については、学校側のかんりの努力と施策の実行により成果が出てきていて、とても良い感じで進められていると感じました。
エンジニアの方では新たな取り組みがスタートするという事で今後期待したいと思います。(木下) →十分
- ④ <クリエイター教育の重点項目>について
学生にとってはやはり就職が一番大きな成果だと思われる。世の中が厳しい方向にむかう中、コロナ禍前の水準に戻すという明確な目標があり、それに向かって着実に進んでいることが理解できる。
<エンジニア教育の重点項目>について
Tokyo P-TECH への連携体制の構築はとても印象的だった。都立高校等、専門学校等、ITに関する企業等が連携や協力していく、高校3年+専門2年の計5年間の一貫した連携教育カリキュラムを実施するなど大変すばらしいと感じられた。
(舟山) →十分
- ⑤ Tokyo P-Tech への連携体制の構築について、多くの企業と連携した実際の仕事に近い内容や実践的な内容を提供できることは多くのメリットがあると思いますので、素晴らしい取り組みと思います。また、高校3年と専門2年の計5年間で一貫した連携教育カリキュラムを実施することで、長期的な計画での教育提供が可能だと思いますので、より深い専門性やスキルの習熟に繋がるのが期待されるかと思います。一方で、専門2年での教育カリキュラムを有意義なものとするため、そのベースとなる高校3年間での基礎的な理解やその連携の難しさが想像されますので、専門課程での内容理解のための前提となる知識や理解の整理、連携を密に実施したくと良いかと考えます。(佐々木) →十分
- ⑥ Tokyo P-Tech については、工業高校、企業が絡むプロジェクトとのことですが今後どのような連携がなされていくかが課題かと思っております。期待しております。(伊藤) →十分
- ⑦ クリエイター教育重点項目
クリエイター教育について、コロナ禍でさがった就職内定率を上げることの対策

がなされ、成果があがったことは学校と先生方の努力の結果。

エンジニア教育の重点項目

P-Tech という高校 3 年間で専門学校 2 年間で合わせたカリキュラムづくりはとても興味深い。高校から実務教育を見据えた 5 年間の内容に期待したい。(篠原)

→十分

- ⑧ DX スペシャリスト科設立には興味を持ちました。DX 定義自体が曖昧なのと、実際に効果・変化をもたらすには現場、バックオフィス、経営と多角的に変革が必要なので、社会経験が無い学生にどのようなカリキュラムで教えていくのかが気になっています。(満岡) →十分
- ⑨ AFUNS は面白い取り組みですね！3 社とも協会会員でもあり、興味深いものになっています。これは工業高校の学生を IT エンジニアにしていく取り組みになりますでしょうか？
このような取り組みが広がると良いと思っています。(原) →十分
- ⑩ 各項目への取組が理解できました。良い結果につながることを期待します。(米井) →十分
- ⑪ クリエイター教育の実績がコロナ禍以前まで戻されているのは驚きです。簡単なことではなかったと思います。
エンジニア教育では Tokyo P-TECH については私学ということもあり始めて知りました。工業系の高校を前提とされているかなと思いますが、普通科でも需要あるのではないかなと思いました。(品田) →十分
- ⑫ 留学生に関して言えば、就職活動は出だしが遅い学生も一定数いて、いつまでに何をどうするという具体的な指導が必要です。クリエイター部門で就職率をコロナ禍前の水準に戻すことができたのは、学生一人一人に具体的に働きかけた結果なのではないかと思います。(会田) →十分
- ⑬ 「就職指導・サポートの充実」対策の結果、コロナ前まで前期実績が戻ったのは素晴らしいです。今後はこの対策・結果による経験を生かして更なる実績につながっていくものと存じます。「Tokyo P-TECH」連携体制の構築、頑張ってください。(谷) →十分
- ⑭ IT 人材を育成する事業として。高校 3 年生+専門 2 年の 5 年間を通じて一貫した連携教育カリキュラムを運用、実施されることは新しい試みだと思います。(小澤) →十分
- ⑮ クリエイター教育の就職サポートがコロナ禍以前に修復できたことはとても喜ばしいと思いました。エンジニア教育の P-Tech 連携も素晴らしい試みだと思います。しかし専門学校から学習を開始するケースの学生との調整は難しいでしょうね。どのようなカリキュラム構成になるか興味深いです。(大山) →十分
- ⑯ 高校と企業との連携非常に良いと思います。高校生の進路の幅も広がる上にもそのまま日本電子に進学しようと思える良い判断材料になると思います。(笹原) →十分
- ⑰ 学科ごとに就職指導(対策)が異なっている中でコロナウイルスが広がる前の数字に何とか戻せたのであれば今後この対策を他学科に共有、実施を行うのかが気に

なりました。(水山) →十分

- ⑱ クリエイター教育に関しまして、コロナ禍で9月末までの内定獲得率が下がってしまったとのことですが、コロナ禍の何が大きく影響したのでしょうか。少なからず他の学科・生徒の方々も影響を受けていると思うので、そこと照らし合わせて欲しいと思います。

また、エンジニア教育に関しては、すでにされているとは思いますが、高校の方だけでなく、連携されている企業の方々の意見も踏まえた年間計画を立てていただきたいと思います。(森碧大) →十分

- ⑲ クリエイター教育、エンジニア教育と、どちらも今後の方針と対策が講じてあり、エンジニア教育に関しては、P-TECH と言うものを先駆けて行っていたと言う事だったので、その点も良かったのではないかと感じます。(武藤) →十分

総合評価 【学校の改善に資するご意見】

評価結果

コメント欄

- ① 全体的に安心できる報告内容でした。講評において、貴校の学生さんの積極的な発言に感心しました。後期も引き続きよろしくお願い致します。(鈴木) →十分
- ② 引き続き頑張っていただけだと思います。
すみません、会にて使用されたスライド資料についてです。
エンジニア教育の項目、コーヒークップが大量に並んだ画像がありましたが、あちらは差し替えた方がいいと思います。かなり意味の出るインパクトが強い画像ですが、特に意味は無さそうでした。なぜこの画像が使われたのかが気になって内容が入ってこないです。(井沢) →十分
- ③ 前回同様、さまざまな取り組みを始められており、今回は中間報告ではありますが、とても良い途中経過と思います。
引き続き、学生の皆さんのためご尽力されることを期待しています。(木下) →十分
- ④ 本校の良い点は、本校の現在地点が明確に見えているところにあると思われる。よって今回前期の現在地を確認し、後期に向けての課題や改善も明確化されているところが、次回も良い評価につながると思われる。今後もぜひ頑張ってください。(舟山) →十分
- ⑤ コロナ禍での日々が日常となり、大変なことも多いことも多々あるかと思いますが、現状を受け入れて、様々な工夫で取り組みをされていることに感心いたしました。今後も期待しています。(佐々木) →十分
- ⑥ 非常にご丁寧にご説明いただきありがとうございます。受け身ではなく、非常に積極的なアクティビティを行われているような印象を受けております。引き続き、期待しております。よろしく願いいたします。(伊藤) →十分
- ⑦ いつもありがとうございます。丁寧なご説明で理解がすすみました。今後とも連携させていただければと思います。(篠原) →十分
- ⑧ 毎回の事です、日々の真摯に向き合う姿勢と努力の結果がよく分かって感銘致します。授業内容、実施方法とともに新しい学校運営変化への柔軟性が、それぞれの学校で差が出てくる気がしました。コロナ禍がもたらした変化をチャンスとして、国内 IT 専門学校のフラグシップの対応を見せつけて頂きたいと思います。
(満岡) →十分
- ⑨ 全体的にいつもとても良い取り組みをしているものと思います。学生の為にも引き続き、素晴らしい取り組みを継続していただけることを望みます。
業界団体としてなかなかご協力出来ていませんが、IT 人材不足が会員からも強く聞こえてきますので、共同での取り組みも含め、よろしく願いします。(原) →十分
- ⑩ 今回もこちらで伺って知ったり学んだりしたことがありました。生徒への説明で

理解を深めることももちろん大事ですが、実は高校教員側が最も説明が必要で理解が足りないのではと痛感いたします。ご説明に来ていただいたり、説明を伺う機会を作っていただきながら、中高側がそれを活用できていない現状は恥ずかしい限りですが、貴学の取り組みが中高側にもっと伝わるようにならないのかなと思いました。(品田) →十分

- ⑪ 貴校は常に教育の質の向上のために試行錯誤をされていて、そのような姿勢を拝見しているため、留学生に自信を持って勧められる学校として当校の教員や学生に案内しております。広報担当の先生方も、当校実施の説明会等でいつも柔軟に対応していただき、この場を借りて感謝申し上げます。
留学生の資格取得率向上のために、本年度から N2 の対策講座も貴校のカリキュラムに組み込んでいただきましたが、開講までの準備期間が短く、学習者の方々にご迷惑をお掛けしてしまった部分があったかもしれないと存じます。貴校とは、入試や特別授業に関して、常に連携を取りつつ進めてまいりたいと考えておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。(会田) →十分
- ⑫ 専門学校という枠組み、義務だけではなく、積極的にいろいろな対策を打ち出し前進している印象です。(谷) →十分
- ⑬ 細かいところまで改善につとめている姿が理解できました。①技能五輪、若年者ものづくり競技大会等の受賞は、元気な学生の活躍に目をみはるものがあります。学校教育だけでは学べないことを学んでいると思います。他の学生への刺激にもなります。②学生主導で定期的に活動している。ボランティア活動(学校周辺清掃、新宿警察主催キャンペーン)は、社会人基礎力を大いに付けることになる町内でみていて大変よい印象を得ています。(小澤) →十分
- ⑭ 本日はどうもありがとうございました。このようにひとつひとつ丁寧に考え、試行錯誤されているのがとても素晴らしいです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(高橋) →十分
- ⑮ 前回の学校関係者評価委員会で不足していた内容を今回できちんと補足できていたかと思います。(笹原) →十分
- ⑯ 学修成果の可視化がとても良いと思いました。私自身自分の実力がクラス内でのレベルにいるのか気になりますし、やる気や動力に繋がります。
また、コロナ中で難しいとは思いますが同じ学科での意見交換や、同じ志を持つ方との話し合いなどができたら私自身心強いと思いました。そして第三者評価も今後も継続していただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。(岡本) →十分
- ⑰ 深く掘り下げている部分と軽く紹介する部分の差が激しく、詳しく理解することができた部分もあればさらに知りたい部分も多くあると感じました。(対策の詳しい内容や今後の動きなど)(水山) →十分
- ⑱ コロナ禍での対応というのは大変難しいと思いますが、コロナ禍も3年目、4年目を迎える中で、過去の傾向から安定した対応をお願いしたいと思います。(森碧大) →十分
- ⑲ 学生が過ごしやすい環境は整って居ると思います。今後は、私たち学生自治会を

通して、学生の生の声を聞きながら、取り入れることができるものについては、検討していただけたらと考えております。(武藤) →十分

IV 令和4年度第二回学校関係者評価委員会議事録

日 時：令和11月28日 13:30～16:00

場 所：日本電子専門学校 7号館1階 711教室

学校関係者評価委員：

名 前	所 属 (役 職)	区 分
鈴木 周祐	株式会社びえろ (人事総務部リーダー)	企 業
井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション (研究開発部 ディレクター)	
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー (エグゼクティブ・アドバイザー)	
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン (社長室長)	
佐々木 伸彦	ストーンビートセキュリティ株式会社 (代表取締役)	
伊藤 好宏	JTP 株式会社 (技官)	
篠原 たかこ	CG-ARTS (教育事業部 事業部長)	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT 職業能力支援機構 (理事)	
原 洋一	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (理事・事務局長)	
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会 (交流推進本部 人材交流委員会 委員)	
森 まり子	東京商工会議所新宿支部 (事務局長)	
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	高校教員等
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校 (教務部 副部長)	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト (プロジェクトマネージャー)	卒業生
高橋 晶子		保護者

大山 宗良		保護者
小澤 博太郎	百人町西町会（会長）	地域住民
山崎 ひかる	コンピュータグラフィックス科（2年）	在校生
笹原 萌絵	アニメーション科（2年）	
岡本 沙織	コンピュータグラフィックス研究科（2年）	
宮下 好葉	コンピュータグラフィックス科（1年）	
水山 颯花	ゲーム企画科（1年）	
森 碧人	電気工事技術科（1年）	
武藤 遼河	学生自治会代表 高度電気工学科（2年）	

日本電子専門学校参加者：

名 前	役 職
船山 世界	校長
杉浦 敦司	副校長
五十嵐 淳之	クリエイター教育 部長
大川 晃一	エンジニア教育 部長
井上 直樹	キャリアセンター センター長
高橋 陽介	学事部 部長

進行：

- | | | |
|-------|-----------------------------------|----------|
| 13:30 | 1. 開会（挨拶、配布資料確認） | 五十嵐 |
| | 2. 校長挨拶、学校関係者評価全体説明 | 船山 |
| | 3. 学校側参加者紹介、学校関係者評価委員紹介 | 五十嵐 |
| | 4. 学校関係者評価の進め方説明 | 五十嵐 |
| 13:50 | 5. 議長選出、委員会開始、議事進行 | 議長（舟山委員） |
| | 6. 令和4年度 教育重点項目 前期実績報告 | |
| | 学校の近況報告 | 船山 |
| | 新設学科設立 DX スペシャリスト科 | 船山 |
| | 第三者評価（2022-2026）の受審 | 船山 |
| | NEXT10「日本電子専門学校の更なる伸張」 | |
| | (1)「建学の精神」の実現に向けた
「教育の質の保証・向上」 | 杉浦 |
| | (2)学生主導で社会人基礎力を養う
キャリア教育の充実 | 井上 |
| | (3)新設学科開発フレームを活用した調査・検討 | 五十嵐 |
| | (4)遠隔授業の標準化・質保証と
先端テクノロジーの利活用 | 大川 |
| | クリエイター教育の重点項目 | 五十嵐 |
| | エンジニア教育の重点項目 | 大川 |
| | ・・・評価結果の判定（評価）・・・ | |
| 15:30 | 7. 意見交換 | |
| 16:00 | 8. 終了 | |

1. 全体会自由意見

自由意見：

自己点検評価の評価（適正・不適正）終了後、学校関係者評価委員より自由に意見を頂戴する時間を設けた。次年度の学校運営や教育活動に直接的、間接的に反映できる意見も多々あり、以下にその記録を報告する。

【(企業／アニメ) 株式会社ぴえろ 鈴木様】

コロナ禍の中で試行錯誤されながら、大変な時期を乗り越えてきたことがわかりました。その中で良い情報として、クリエイター教育やイベントについても少しずつ実施できるようになってきたことで、数字が追い付いてきているように感じました。少しずつ難局を乗り越えていけばよいと思いました。安心しました。

【(企業／ゲーム) 株式会社ファンコーポレーション 井沢様】

コロナ禍で大変な中だと思いますが、しっかりと対策をしつつ、予定行事を前向きに取り組んでいる姿勢が素晴らしいと感じました。「ディプロマサプリメントによる学修成果の可視化」は学生のモチベーションにつながると思いますので、上手く機能すると良いなと思っています。

【(企業／デザイン) 株式会社ジェイスリー 木下様】

前回も参加させていただきました。途中経過を見る限り、かなり頑張っている様子が伺えました。新しい学科や既存学科の見直しについては、今後に期待できるとしています。新しい時代に合わせた内容で実施されることを期待しています。

【(企業／ネットワーク) ストーンビートセキュリティ株式会社 佐々木様】

様々な工夫をされており、頑張っているという印象を受けました。知見の構築と共有については、今後重要なキーになっていくと思います。知見の構築と共有や蓄積は、時間の経過と共に、内容の形骸化や活用されなくなってしまうこともあるので、定期的に点検を行うことや、ブラッシュアップをしていくと、さらに良くなると感じました。

【(企業／AI・モバイル) JTP 株式会社 伊藤様】

積極的、意欲的に活動されている印象を受けました。例えば、技能五輪大会への参加でチャレンジの為の示唆を学生に教えていることや、新設学科設立、Tokyo P-TECH が挙げられます。受け身ではなく、積極的な姿勢だと思います。今後、Tokyo P-TECH での高校や企業との連携が課題になってくると思います。期待しています。

【(職能団体／CG・映像) CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会 篠原様】

教育課程編成委員会にも出席させていただいており、先生方が真摯に対応、ご尽力いただいていると感じております。特に学生自治会での社会人基礎力向上について、大変興味深かったです。主体性のある活動をされていて、成果測定もされるということで面白いと思いました。また、Tokyo P-TECHでの活動についても興味深く、成果報告を楽しみにしています。

【(職能団体／情報) 一般社団法人 IT 職業能力支援機構 満岡様】

とても分かりやすい説明でした。学校にしばらく伺うことができていなかったで、状況がわかり安心しました。弊社の顧客やメンバーでも DX を取り入れています。実際の現場では有効に活用することや成果を出すことはなかなか難しいので、どのように学生に多角的ノウハウを習得させていくのか気になりました。

【(職能団体／ビジネス) 一般社団法人ソフトウェア協会 原様】

全体的に良い取り組みをされていると感心しております。22歳以下のプログラミングコンテストにもチャレンジいただきありがたく思います。また、コロナ禍で学生同士がどのように繋がっていくか気になっております。社会人になって学生時代の友人はとても重要になります。コロナ禍では培うのが難しかったと思います。これからは with コロナで上手く取り組みをしていくことが必要だと思います。また、AFUNS について初めて知りましたが、良い取り組みだと思います。我々業界団体としても今後、共同で取り組めることがあれば積極的に行っていけたらと思います。

【(職能団体／電子) 一般社団法人組込みシステム技術協会／株式会社インフォテック・サーブ 米井様】

「学習成果の見える化」「遠隔授業の標準化」は、手間が掛かり大変なことですが、手を抜かず取り組んでおり、非常に好感が持てました。

【(職能団体) 東京商工会議所新宿支部 森様】

第三者評価を積極的に実施されているということですが、とても説明がわかりやすく、かみ砕いていただき、良かったと思います。難しくなりがちな科目や学科の内容がよく理解できました。また、長引くコロナ禍において、今後は地域との連携や交流をどのように行っていくかが課題です。挑戦する教育について理解しましたし、応援したいと思いました。

【(高校教員等) 聖徳学園中学・高等学校 品田様】

学生に寄り添う姿勢が伝わりました。学生の挑戦を奨励されていて結果を出しており、就職面でも実際に結果が出している点が高等学校にもっと伝わればよいと感じております。Tokyo P-TECH にも関わりますが、高校でも情報分野について様々な改定があり、専門学校の観点からのお話を伺う機会をいただければと思います。

【(卒業生／2005年 JY 科卒業) 株式会社アプリケーションプロダクト 谷様】

産業界のニーズに基づいた基礎的汎用的能力の養成プロジェクトにおいて、基礎的汎用的能力を測定するということが素晴らしいと感じました。社会に出て、社会人として非常に重要な要素です。しかし、カリキュラムに組み込むのが難しいように思いました。学生にニーズがあるのかも疑問に感じます。また、過去の実績や定石があるのか疑問に感じました。測定することは、学科による違いがわかり、有意義なデータになると思いました。

【(地域) 小澤様】

学生主導で定期的に活動しているボランティア活動について、日本電子専門学校に学生には非常に良い印象を持っております。周辺の清掃や、新宿警察主催のキャンペーンへの参加など、社会人基礎力をつけることにも繋がると思います。

【(保護者) 高橋様】

様々なことを考え、作成、見直しをしておりました。素晴らしいと感じました。学習成果の可視化は、わかりやすくなるので、非常に良い取り組みだと思いました。

【(保護者) 大山様】

様々な内容を報告いただき、先生方の取り組みや、学生の挑戦や実績を知ることができました。また、今後に向けての能力の標準化、数値化への取り組みは非常に素晴らしいと思います。クリエイターとエンジニアでは違うと思います。息子はクリエイター分野に通っていますが、今は自分が何か表現できるようになるために、バックグラウンドになる要素が何かを探しているようです。クリエイター分野はそういう分野なので、そこに関しては数値化が難しいと思いました。ただ、エンジニア分野ではターゲットが明確に設定されていないと、ひとつひとつ到達していけないので、数値化への取り組みは素晴らしいと思います。幅広い分野に対して教育されている、先生方の優れた能力、取り組みには敬意をもって、楽しみにしています。今後ともよろしくお願いいたします。

【(在学生) 山崎様】

技能五輪国際大会に参加させていただきました。学生の、挑戦したいという気持ちを日本電子専門学校のみなさまに手厚くサポートをしていただいたおかげだと思っております。感謝しています。ありがとうございました。

【(在学生) 笹原様】

昨年参加させていただいておりますが、どんどん良くなっている気がします。日本電子専門学校の良い点も、これから改善すべき点も知ることができて良かったです。

【(在学生) 岡本様】

「学習成果の可視化」が非常に良いと感じました。自分のレベルがどの位置にいる

のかわかることができ、モチベーションや努力にも繋がると思います。コロナ禍で難しいかもしれませんが、学内での学生交流の機会が増えると良いと思いました。コミュニケーション能力の向上にも繋がるので、ご検討をお願いします。

【(在学生) 宮下様】

オンライン授業について、賛否が分かれやすいものだと思います。意見交換などコミュニケーションが取りづらいという点が課題になってくると思いますが、個人的にはオンライン授業は良いと思います。オンデマンド授業はリアルタイムで質問ができないことや、質問内容の共有ができないため、実施は慎重に検討していただければと思います。また、企業との連携はありがたいと思っています。来年就職活動を控えていますので、これからもよろしくお願いします。

【(在学生) 水山様】

DX スペシャリスト科のオープンキャンパスの内容が気になりました。また、学チカという言葉が流行る中で、学校側から学生主体の学校行事のあり方について取り組んでくださっていることについて、ありがたく感じます。学生自身がどう参加していくかによって、今後の就職活動が大きく左右されると思いました。

【(在学生) 森様】

コロナによる影響があると思いますが、コロナ禍も3年間迎えることから過去の経験を活かし、安定した運営をお願いしたいです。

【(在学生) 武藤様】

日専祭を開催させていただきありがとうございました。学生の視点から、日専祭を開催できたことはよかったと思います他学科との交流できました。自治会の視点からは、今後もイベントを実施していきたいと思っています。キャリアセンターの先生や他学科の先生と協力していけたらと思います。

【(企業/電気) 株式会社横浜環境デザイン 舟山様】

いつも感心します。日本電子専門学校は、今自分がどこの位置にいるのかわかっているため、目的をしっかりとクリアできているのだと思います。